

「感熱紙で遊ぶ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

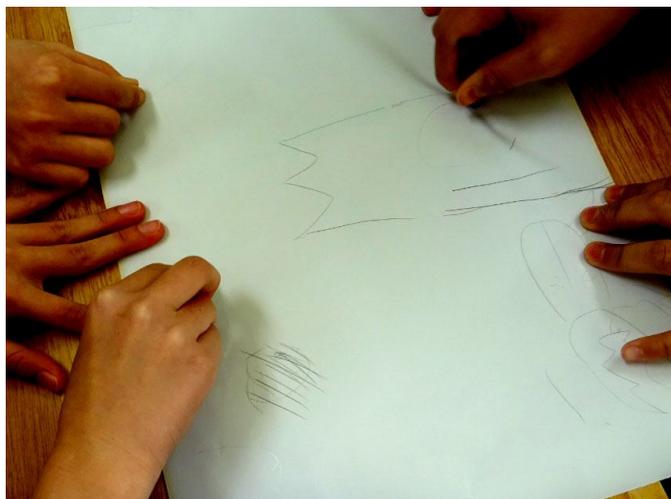
現在ワード・プロセッサーといえば、「ワード」や「一太郎」といった、パソコン上でのソフトで扱うのが当たり前である。「日々の理科」も、毎日 Windows 上のワードで作成している。しかし 20 世紀には、独立した機器として「ワープロ」が活躍していた。



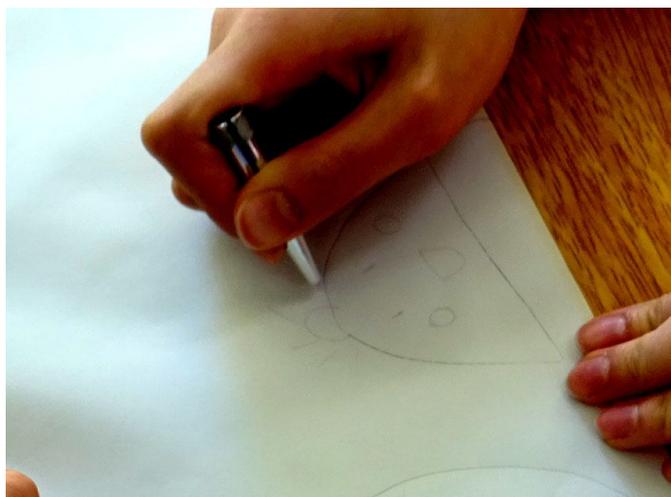
写真はNECの「文豪ミニ」というワープロで、私は今でも時々使っている。こうした機種の良いところは、画面、キーボードに加え、印刷機能も一台にすべて搭載されている点だ。このワープロの印刷で活躍したのが「感熱紙」である。今でもファクシミリやレジの領収証ではよく使われている。



この感熱紙ロールが、押し入れから大量に出てきた。捨ててしまうのもったいないので、私は子どもたちの遊び用に、自由に使わせてみた。



感熱紙は、機器の中にある熱を出すヘッドで、文字や画像を印刷する為の紙である。強い圧力（摩擦熱）によっても表面が黒くなる。おもりの衝突の実験の時は、玉が落ちた位置の特定に、よくこの感熱紙を利用した。



鉛筆のキャップでこすっても、線や絵が描けるところが面白い。子どもたちは夢中になって描いていた。



定規、自分のつめ、それに消しゴムでも黒い線が描ける。感熱紙を見つけたら、捨ててはいけない。